白紙配合率100%再生紙を使用しています

朝日新聞の姉妹紙

朝日シティニュース

毎月第1・3水曜日発行
発行部数　180,000部（一部50円）

©発行所・（株）朝日シティニュース社
〒194－0013　東京都町田市原町田6－17－18　フジビル87
TEL　042－729－3626
FAX　042－729－0152

下記ASAがお届けしています

相模原市
相模原北口東部
相模大野東部
相模原みなみ
相模大野
相模原中央
相模原北
相模大野
相模原
上溝南
相模原
橋本西
橋本
津久井東部
津久井
大沢
田名
相模湖
相模原
座間市
相武台前
相武台南
新座間
座間
相模原
相模原
海老名市
海老名南部
海老名北部
綾瀬市
綾瀬中央
綾瀬東部
大和市
小田急桜ヶ丘
大和南
大和北
南林間
中央林間
古淵
淵野辺東部
淵野辺西部
相模原中央部
相模原
東林間
大和沼

震災直後 被災地の 大船渡市に無線設置

支援協力に 相模原市役所職員による アマチュア無線クラブ

交信で初動態勢に 重要な役割

3月11日14時46分に三陸沖を震源としたマグニチュード9・0の東日本大震災が発生した。相模原市とは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の研究施設が縁で友好関係にある岩手県大船渡市も、津波により大きな被害を受けた。大船渡市は、市中心部と半島地域の間に高い山が走り、山の頂上にあった無線中継装置が破壊され、「命綱」だった無線を含めた、あらゆる通信手段がたたれた。相模原市は、現地状況や支援要請内容を把握するため、震災直後、大船渡市に職員を派遣して無線局を開設。通信が難しくなる災害時において、無線による被災地との交信は、初動態勢における有力な連絡手段として大きな役割を果たした。

市職員でつくる相模原市役所アマチュア無線クラブは、加山俊夫市長の指示を受け、クラブ員で無線技術士の資格を持つ道路管理課副主幹の大谷誠治さん（54）を大船渡市に派遣。13日の夕方、2台の無線機など機材一式と発電機を積み込み、第1次派遣隊7人のうちの1人として、緊急支援物資を積んだ4トントラック2台とともに出発した。

14日、到着後すぐに大船渡市役所内の災害対策本部の一角と、半島地域にある越喜来（おきらい）地区と綾里（りょうり）地区の計3カ所に無線機やアンテナを設置。13時10分に、相模原で待機していた農業委員会事務局副主幹の松浦毅さん（48）の呼びかけの声が無線機から聞こえ、約500キロ離れた相模原市との初めての交信が行われた。

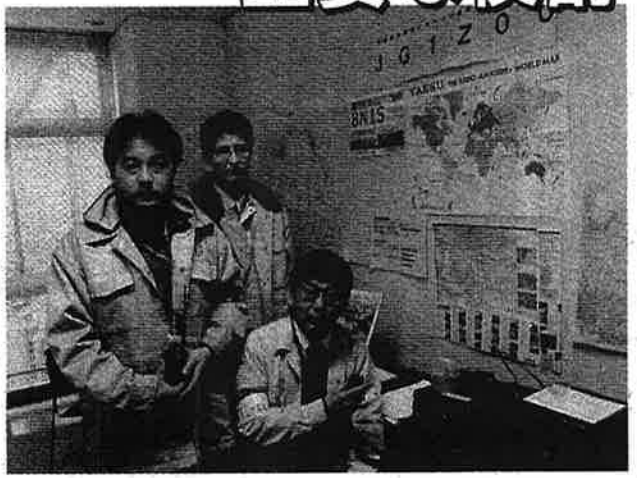
15日には、麻溝台環境事業所環境整備員の渡部利幸さんが2次隊で現地入り。9時から17時まで1時間ごとに定期交信し、必要な物資や現地の状況を伝えた。

ほかの2カ所には、無線の資格を持つ現地の女性職員2人が待機し、中央の高い山で遮られた市内間の交信が、相模原を中継することで可能になった。

その後、防災無線の復旧、公衆通信回線の一部回復などにより、3月23日で無線局の役割は終了した。

同クラブは中央区長飯田生馬さん（57）が代表。会員は25人。1971年発足。

相模原市や大船渡市など宇宙開発の最先端技術を研究するJAXAの施設がある6つの市町は、銀河連邦として、友好を深めている。96年には災害時における人的・物的の相互応援に関する協定を締結した。



（右から）大船渡市で3台の無線機を設置した大谷誠治さんと相模原市役所で交信した松浦毅さん、方波見淳さん